

2010・5・9 **みらい通信** NO. 33

豊川市次世代育成支援対策地域行動計画（後期計画）に対してパブリックコメント提出  
 2010/1/31

パブリックコメント制度とは、市民に市政参加を促し市民と共にまちづくりをするために、行政が意思決定過程の素案を公表・意見公募を行い、市民の声を行政施策に活かす制度。今回の応募者は豊川共生ネットみらいのみ。今後も男女共同参画社会づくりと密接な関係のあるパブリックコメントに取り組みます。



（豊川市パブリックコメントの手続き <http://www.city.toyokawa.lg.jp/munic/200610190001.html>）

豊川共生ネットみらいの意見	市の考え方 <a href="http://www.city.toyokawa.lg.jp/munic/201003080001.html">http://www.city.toyokawa.lg.jp/munic/201003080001.html</a>
<p>計画の各事業に男女共同参画社会づくりの視点を取り入れ、市民や市民団体と協働で事業を行うことを期待する。</p> 	<p>分野別計画の中で、「5 職業生活と家庭生活との両立の推進」の項目、「5 - 1 多様な働き方の実現及び男性を含めた働き方の見直し等」の施策を設け、対策推進のために男女共同参画推進が重要であると位置づけている。また、策定にあたっての「計画の視点」及び「基本方針」において社会全体でさまざまな担い手の協働の下に次世代育成支援対策を進めていくこととしており、市民や市民団体との協働に努める。</p>
<p>市民や市民団体と協働で次世代を担う子ども若者に対して出前講座などを通じて、豊川市男女共同参画推進条例の浸透を図ることを期待する。</p>	<p>分野別計画「5 職業生活と家庭生活との両立の推進」の項目、「5 - 1 多様な働き方の実現及び男性を含めた働き方の見直し等」の施策においても、男女共同参画推進条例に基づく具体的事業の推進を課題として認識し、重点事業でも男女共同参画の啓発を進めることを位置づけており、条例の浸透にもつながるものと思う。</p>
<p>育児介護休業制度の定着やワーク・ライフ・バランスの普及を速やかに行うことが持続可能な地域社会づくりへの早道であると考え。意識啓発にとどまらない一歩踏み込んだ行政の事業所への支援を期待する。</p>	<p>本計画では、切れ目のない包括的な子育て支援とともに、ワーク・ライフ・バランスを重要な方針として位置づけている。現段階では、効果的な啓発を行うことを課題とし、事業所への啓発用パンフレット等の配付のほか、関係機関・団体と連携し、有効な啓発手段を検討し、実施することとしている。こうした中で、事業所への支援についても研究していく。</p>
<p>幼保一元化に関する記載がないが、幼保一元化についてどのように考えたか。</p> 	<p>幼保一元化については、幼稚園を主体とした認定子ども園の研究、検討を行うこととしており、分野別計画「1 地域における子育て支援の推進」の項目、「1 - 2 保育サービスの充実」の施策の中に関連事業として位置づけている。</p>
<p>保育園を地域に開かれたものにするため、保育園独自の裁量で地域の事情に合わせた事業創出をする体制を整えてほしい。</p>	<p>保育園については、地域の事情も考慮しながら延長保育や一時的保育などの特別保育を実施している。園の行事についても、地域の特性を生かし工夫していく。</p>
<p>新市民病院が開設されるにあたり、周辺の保育園との連携を望む。</p>	<p>保育園については、指定園で一時的保育を実施しており、新市民病院に限らず、病院の通院などで保育が困難な場合にはご利用いただける体制をとっている。</p>
<p>ポータルサイトなどを利用し、『子どもは豊川市の宝』という市民意識を培っていく必要があると考える。</p>	<p>ポータルサイトなどの媒体の活用については、分野別計画「1 地域における子育て支援の推進」の項目、「1 - 1 地域における子育て支援サービスの充実」の施策、重点事業中にも、子育て情報の提供をこうしたもので行う計画を位置づけている。</p>
<p>児童館整備について、各中学校区で有効活用がされていない場合、新設は見合わせたら</p>	<p>既存の児童館は、地域の健全育成の拠点として活用されており、児童館を身近な地区に整備してほしいという要望も高いものがある。中学校区に1館の整備を進め</p>

どうか。	ていきたいと考えている。
ノートやひきこもりの支援体制整備を図る「子ども・若者育成支援推進法」を盛り込むことができなかつたのか。	子ども・若者育成支援推進法に基づく子ども・若者育成支援推進大綱が今後策定されるところであり、支援体制の整備について次世代育成支援対策地域行動計画に盛り込むことができなかつた。
いろいろな相談にいつでも対処できる体制が必要。行政の相談窓口ではいつも寄り添うような柔軟な対応が難しいと思われる。DV被害者などの緊急対応のためには、行政・関係機関・民間団体の連携体制を創り上げ、市民に周知させる必要があると考える。	分野別計画「7 要保護児童への対応などきめ細かな取組の推進」の項目、「7-1 児童虐待防止対策の充実」の施策、重点事業の「要保護児童対策地域協議会」では、行政・関係機関・民間団体が連携し、児童虐待対策、子どものいる世帯のDV対策にあたっている。今後とも被害児・者に寄り添った柔軟な対応に努めるとともに、市民への活動の周知を図っていく。
旧町の役場（現支所）を次世代育成の拠点として生かすことはできないか。	「計画の視点」でも明らかにしているとおり、保育園、児童館、公民館、学校施設等を始めとする各種の公共施設といった地域における社会資源を効果的に活用して次世代育成支援対策を進めることが必要だと考えているが、旧町役場（現支所）については、現時点では具体的な計画はない。



豊川市男女共同参画に関する意識調査報告書（案）についての意見を  
豊川市男女共同参画基本計画策定委員会に提出

2010/3/8

今回の市民意識調査では、男女共同参画社会づくりへの市民意識が全体的にトーンダウンしている印象があります。どのような推進姿勢にするか、綿密な分析が必要だと考えます。

1. すべての問いに対してクロス集計が行われ、報告書には特徴的な数値が記載されたと思います。記載されなかつたところに関して特徴的な数値がなかつたかどうかの確認を今一度お願いします。
2. 文章がグラフ表示の数値説明だけの記載には理由がありますか。数値はグラフを見れば読み取ることができるので、説明を一部省略し分析の記述を掲載したほうが、読む側の理解が深まると思います。
3. 双方向の信頼（市民 行政）のため、どんな意見でも報告書にはありのまま掲載をお願いします。意識調査は市民の行政への関心を促す場。市民は行政に参画できたと思い、調査に協力しています。
4. 【事業所意識調査】と【市民意識調査】のいずれの分析説明を記述する箇所を、両意識調査の報告書にそれぞれ記載していただくことをお願いします。
5. 豊川市の特徴が現れた箇所を見出すために、豊川共生ネットみらいでは、生データの分析をし、基本計画策定に臨みたいと考えています。

この意見書は第7回策定委員会（3/19）で検討されました。下記がその回答。

1. について	クロス集計はしていない
2. について	基本計画策定時に検討 国・県調査との比較を記述
3. について	行政批判も含めありのままに掲載するが、1件（学校内のセクハラ）のみ削除 年齢・性別は削除
4. について	基本計画策定時に検討
5. について	生データを公開する

基本計画策定委員会（ は男女共同参画推進市民団体）

生活活性部部長（委員長） 生活活性部次長 子ども課長 福祉課長 保健センター課長 学校教育課長 生涯学習課長 建築課長  
国際課長 企画課長 国際交流はなのき会 雀部の会 東三にじの会 Right&Eye 豊川共生ネットみらい  
事務局 生活活性課 課長 課長補佐 係長 男女共同参画担当

豊川市男女共同参画推進条例（H21/4/1 施行）を実践化するために、基本計画は、意識調査結果を基にして1年間かけて策定されます。（策定委員会 審議会 議会 H23/3）

## 相談支援スキルアップ講座

2010/2/21 10:00～16:00 ウィズ豊川視聴覚室

参加型学習（ワークショップ）で学んだ。 6グループ×5名

- ・話し手、聴き手体験
- ・傾聴していることを話し手に伝えるには
- ・ラポート（共感）トークとリポート（報告）トークの特徴
- ・共感していることを話し手に伝えるには
- ・話し手の話を明確にするには

午前の部は豊川市 パートナースHIP推進出前講座

参加 30名(定員 20名のところ申込み 38名、30名受付) 託児 6名 受講料 3000円 託児費 500円

講師

増井さとみさん

ウィメンズカウンセリング

名古屋 YWCA



相談者（話し手）は子ども、パートナー、部下、友達、支援する人・など様々。どんな場合にも共通するスキルがあります。

### 要旨

・相談者のこころを聴く・・・カウンセリング技法を学んでスキルアップ・・・

#### 1. 相談を受けるとは～どのように聴くか～

傾聴・・・ただ話を聞くだけではない。

傾聴するために必要な相談員（聴き手）の態度

受容 共感

傾聴の技法

“非言語的な行動”から相談者（話し手）の心を読み取る

姿勢・表情・声の調子・言葉の間隔・沈黙・呼吸の速さ・発汗・発疹・身体的特徴・外見・洋服・態度・・・

“言語的メッセージ”から相談者（話し手）の思考・判断・意思などの主体性を積極的に認める。

・経験（自分の身に起こったこと 出来事 見聞きしたこと） ・行動（したこと しなかったこと 心に思った行動） ・感情（どんな気持ちだったか）

“そのひとそのもの”を知りたいという好奇心をもって聴く

援助過程と相談者（話し手）の日常生活を関連させて、総合的に聴く

受容・・・相談者（話し手）の話を評価や判断を加えずにそのまま受け取る。

受容による相談者（話し手）の変化

相談者（話し手）は自分自身と向き合うための準備ができる。

相談者（話し手）は、話してよかったという安心感と自分は認められているという感覚を持つ。



共感・・・『共にいるという在り方』 “同情”とは違う。

自分の感情を持ち込まず相談者（話し手）の身になって考え、相談者（話し手）の気持ちで感じる。

相談者（話し手）が自分の問題に気づくのを支援する手段

“あなたと同じ目にあつたらあなたと同じように思うよ！”（相手の枠組みで感じる。体験の有無とは無関係）

cf. 『同情』は“かわいそうに！”“わかる、わかる！”と自分枠で勝手に相手の感情を先取りすること。

共感するために必要な相談員（聴き手）の態度

相談者（話し手）の感情に焦点を当てる。

相談者（話し手）の物の見方、価値判断の枠組みに入ろうとすることで、『敬意』を伝える。

相談者（話し手）と信頼関係を築く。

共感の技法

傾聴をする中で相談者（話し手）の感情をとらえ、その感情を持つに至った経緯や行動を理解する。

の理解をしていることを伝える。

相談者（話し手）の話からイメージしたことを相談者（話し手）に積極的に言う。相談者（話し手）

の琴線に触れることができる。（能動的共感）

相談者（話し手）の話や感情表現を受け止め伝え返す。繰り返す、オウム返し、要約。（受動的共感）

## 2. 相談員（聴き手）に必要なこと～何を聴き、どうするか～

### 相談員（聴き手）の姿勢

相談者（話し手）にとってカウンセリングが必要かどうかを見極める。

相談者（話し手）が重大だと思っている問題に焦点をあて、整理する。

- ・危機状況への介入
  - ・苦痛を与えている問題から始める
  - ・解決可能な小さな問題から始める
- 焦点化した問題を探求する。

傾聴・受容・共感

開かれた質問（どうして、どのように、どんな）をする。閉ざされた質問（yes、no で答えられる）も時には有効。

知らない情報を与える。

『わたしは・・・と思うが、あなたはどうか』と意見を求める。

『夫が冷たいのは、家事不得手な私のせい』なら“夫が冷たい”“私のせい”のどちらを強調していくかを決める。隠れている問題の外在化をする。

時々、内容の要約する。『あなたの言われたことは・・・ですね』



### 相談していく中で起こること

相談員（聴き手）と相談者（話し手）との関係

信頼関係

協働関係

問題が明確になる

主訴が問題でないことを知る。

問題は相談者（話し手）が気づいていく。『答えは相談者（話し手）が持っている』

相談者（話し手）の体験を再構成した物語がつけられる

目標が共有される。（その過程がカウンセリングの治療的意味を持つ）

相談時間

1時間以上だとまとまりが悪い。一般的に50分。継続して大枠で捉えていくのもよい。

座る位置

威圧的にならないように、L字が正面より斜め。部屋の奥に相談員、入り口近くに相談者。

部屋の環境

ゆったり、リラックスできる部屋。

相談員（聴き手）の資質

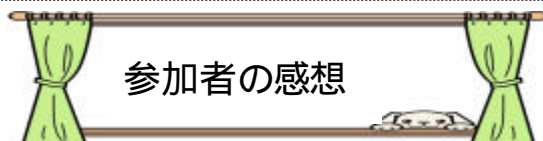
人に対して尊敬と好奇心を持っている。人が好き。世の中をよくしたい思いがある。聖人君子でない、ありのままの自分を認めている。

相談員（聴き手）のメンタルケア

・分かち合える仲間を持つ

・相談は2名で対応

・気分転換をする



### 参加者の感想

- ・共感するということは大切だということが分かっているようでなかなかできていない自分があるので、いろいろ勉強していきたいなと思いました。今日は来てよかったです。（40代）
- ・仕事、人とのコミュニケーションをする上で今日学んだことが生かされ、自分も成長できたらいいと思います。また、将来、自分の存在で誰かが救われたり誰かの役に立てれば嬉しく思います。（30代）
- ・受容、相手をそのまま受け入れることが今まで出来ていなかったことが、自己発見になった。（20代）
- ・女性の方が自己研鑽しているのに男の方が会社人間の狭い世界に固執しているとなかなか問題だと思った。（40代）
- ・ワークショップはとても多くのことを感じたり思ったりすることができ、よかったです。（50代）
- ・男女（夫妻）2人で参加できる講座があるとよいと思った。（40代）
- ・男性が混ざると別の視点も見える気がしました。（チョット気もつかうかな？）（50代）

2010/5/7 **国の第三次男女共同参画基本計画策定(中間整理)に向けての公聴会**がウイレあいちで開催され、みらいから3名参加。福島瑞穂男女共同参画担当相、専門調査会の鹿嶋敬氏、辻村みよ子氏、岩井宣子氏が出席。全体参加者は300名余。時間半にわたり会場からの意見が求められ、挙手多数の中発言できたのは23名。……みらい通信次号(34号)で詳細報告を掲載予定……

【資料】<http://www.gender.go.jp/danjo-kaigi/kihon/sanjikeikaku/chukanseiri/index.html>